

生まれてきたこと、生きていることの素晴らしさをすべての人々が感じられる社会に。

命の誕生に立ち会う現場にいる助産師だからこそできることがあるのではないかと、そんな思いから「命の大切さ」を伝える事業に取り組んでいる助産師グループがある。自己の存在を肯定し、そのかけがえのなさに気づく人々が一人でも増えることは、共生社会への一歩でもある。

誰もがみな「生きているだけで百点満点」。

1997年に起きた神戸児童連続殺傷事件は日本中に衝撃を与えたが、「命が誕生する現場にいるものとしてショックを受けた」と、群馬県太田市で助産院を開業する助産師の鈴木せい子さんは言う。それ以前から、「誕生のときだけでなく、その後の人生を含めた長いスパンで命というものに関わりを持っていくのが助産師の仕事ではないか」と考えていたという鈴木さんは、この事件をきっかけに、98年に仲間の助産師と共に、は〜とふるすぺ〜す はぐくみを立ち上げた。

活動の中心は、子どもから大人まで、また社会的に弱い立場に置かれている障がい者や高齢者を含めた幅広い人々を対象に、「命の大切さ」を伝える講座や講演を実施することだが、「助産師としての専門性を生かし、命が誕生する瞬間の感動と、生まれてくることのすごさ、生きていることの素晴らしさを伝える」ことをモットーとしているという。そうした活動を通じて、は〜とふるすぺ〜す はぐくみの約20名のメンバーが伝えたいメッセージを鈴木さんは次のように表現した。

「子どもたちには生まれてくる時の様子を伝え、家族をはじめとする周囲の人々の喜びや祝福のなか、待ち望まれて生まれてきたこと、自分がかけがえのない存在であり、多くの人々に喜びと幸せを分け与えていることへの気づきを与えるようにしています。また、障がいを持つ方々に対しては、生まれてきてよかった、生きていてよかったと、生きる喜びが感じられるメッセージを届けられるよう努力しています」

その根底にあるのは、すべての人々が「生きているだ



福島県須賀川市立福田小学校で行われた『いのちの授業』の様子



スタッフや子どもたちも楽しそうに取り組んでいる



群馬県立二葉高等養護学校での講座

けて百点満点」だということ。この「百点満点」とは、決して人間を点数評価しているのではなく、無条件で存在そのものを全肯定することを意味している。

多くの人に命への気づきの輪を広げるために。

今回の助成を受けて、は〜とふるすぺ〜す はぐくみでは、新潟県妙高市立新井中央小学校、群馬県立桐生商業高校定時制、同二葉高等養護学校、同聲学校、福島県須賀川市立福田小学校、千葉県野田市のこころのネット・ハートゆうの6ヵ所の学校や障がい者支援団体に出向いて講座を実施することができたという。

「継続的な活動が徐々に浸透し、NHKラジオ深夜便『こころの時代』への出演などもきっかけに、全国各地から講演の要請が増えているのですが、メンバーの助産師は医療機関に所属せずにフリーで仕事をしている立場な

担当者より



活動の幅を広げる
という意味でも
助成は役立ちました。

は〜とふるすぺ〜す はぐくみ
鈴木せい子さん

自治体の施策からこぼれがちな、社会的弱者といわれている方々のところに向けたのは、今回の助成のお陰です。また、つらい状況の中にある福島の子どもたちにはかえってこちらが元気をもらいました。今後も自分たちのライフワークとして取り組んでいきたいと思っています。

ので、経費の捻出にしろ、時間の確保にしろ、困難なことが多く、すべての依頼に応じられないというのが実状です。その意味でも、今回の助成は助かりました。おかげさまで6ヵ所で開催することができましたし、講演の記録を残したり、教材作りをするための機材を揃えることもできました」と、鈴木さんは言う。

小学生を対象にした「命の授業」の模様を収めたDVDを見ると、プログラムは実によく練られており、子どもたちも集中力を切らすことなく、鈴木さんたちの話に耳を傾け、体験学習に積極的に取り組んでいる様子が印象的だった。は〜とふるすぺ〜す はぐくみでは、毎月、スタッフが集まり、講座や講演のスキルアップを図るための研修も重ねている。講演の前と後に、自分の存在のかけがえのなさや命に関して、どういう気持ちを抱いているのかや、内面がどういうふうに変化したのかを調べるアンケートを実施しているが、講演後には子どもから大人まで、明らかに自己肯定感や自尊感情が高まり、家族や友人、わが子への思いやりの感情が高まる傾向が強いという。また、講演を聞いて自傷行為や自殺を思いとどまった人もいるという。

は〜とふるすぺ〜す はぐくみでは、今後、近隣自治体の助産師グループや、命に関わる立場にいるさまざまな機関・グループなどとの協力も考えながら、全国的に活動を展開していきたいという。